

No. 86

公民館だより

平成4年4月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

自律性

館長 小室 哲 寛

良識ある社会人であるために備えていなければならない具体的な資質について、前回は「ヒューマニズムに富む人」をあげたのであるが、今回は、「自律性のある人」について考えて見たいと思うものである。

自らの良心と理性的判断に基づく行動を起すには勇気が必要となつて来るのであるが、この良識ある行動を勇気づけるものは正義感にはかならない。正義という言葉は、古代ギリシャに始まり、都市国家存続の基礎を正義に求めたのである。

以来正義は最高の道徳であり、社会の秩序は、正義によって守られており、法律は正義の実現を目的としたものとして、正義による社会秩序の維持思想は、西欧においてもアメリカにおいても今日まで一貫して生きつづけているものである。

このように正義は社会存続の基礎である以上、社会を構成し社会の中に生きていく社会人として、良識的である為には、正義感を各個人が持たなければならぬことは、洋の東西を問わず非常に重要なことである。

この正義感を自己の資質として多分に備えている人ほどこれによって良識ある行動を起す意志が勇気づけられる度合が大きいものである。又この正義感を尺度として、自己の意志と判断にもとづいて、正しいと信ずるところに向つて行動出来る人が自律性のある人と言えるものである。

カントは世界のあらゆる価値のなかで、道徳の価値を最高の位置におく「道徳律」をうち立てたのであるが、それによれば自己の意志と判断に基づく行為は理性によって裏づけられなければならないとしたのである。この理性にもとづく意志の自律こそがカントの倫理想の根底をなすものと思えるのである。

道徳律の根源の意志の自律とは何かを私なりに探ってみるとつまり、道徳的自律の原則は、人々の行為のすべての格率が、つねに、いつでも誰にでもあてはまる普遍的な法則となるよう

な基準に従つて行為することであるといふのである。すなわち自律的であるということは心の思うままに言うのではなく、自分の行為が広くどこにでも誰にでも通用するように、心にきめて行為するということである。

格率というのは、自分できめて自分に課する規則・習慣や行為の準則といふべきものである。たとえば簡単なことと言えば自分は嘘は絶対つかないようしようとか、人を押しつけるようなことはしないとかが、そういう日常的なものから高度な人生観に関するものまで数多くある中から、自分にも出来ることで、自分が実行しようとする徳目や行為習慣を、自分できめて、自分に課して行為するということで、それがそっくり世間一般の法則になつてもよいようにものを、自分で決めて実行するといふことを意味している。

カントは以前の倫理学では、

道徳の根拠を神の意志において、
りする他律的な道徳観をしりぞ
け、意志の自律による道徳律を

説いたのである。即ちカントは
人が良心的である為には良識に
従うべきであり、その良識とは
人間の理性なのであると説くの

である。そして人はその理性が
自ら立てた自律的な意志によっ
て自身自身に課する道徳律に従
うべきであると説くのである。

更にこの道徳律については、
カントの「実践理性批判」の結
論の項の中に掲げられている有
名な言葉を紹介しておきたい。

「それを考えること屢々にし
て、かつ長ければ長いほど益々
新たに、かつ増大してくる
感嘆と崇敬とをもって心を充た
すものが二つある。それは、わ
が上なる星の輝く空と、わが内
なる道徳律とである」

これこそ道徳律によって、つ
くり出される崇高な人格の世界
を簡明に説き明しているもので
あり、道徳律によって人間の価

値は無限に高められるというも
のである。

かくて道徳律の下にある意志
は「自由な意志」であり、この
自由な意志によって自己に規制
を加えるからこそ自律性がある
というのである。

右は物怖じもせずカントの道
徳律を教科書として引用して来
たが、要するところ自律性があ
る人というのは、自己の意志だ
けで正しいと思うことを実行出
来る人ということとなる。

これは一見容易なことのように
とも思われるが、決して容易な
ものではない。人間の外面的な
行為ならば規制することは出来
ても、それは人間の心の中の問
題であるからである。

ところがそれには、天の偉大
なる摂理とでも言うものか、心
の中を監察する裁判官に常に裁
かれて「良心」を誰しもが
持っていることである。

人は外からの法律・道徳・習
慣の強制だけでなく、心の内面

からの規制を受けているため、
人はひとたび社会に認められて
いる行動範囲を踏みはずすとき
は、社会的に罰せられる前に、
自分の心に痛みを感じるもので
ある。これは心の奥底にある自
己を責める声であり、これが良
心の働きである。

そしてまた、悪い方に働こう
とする心を諫め、良い方に導く
うとする心即ち「良心」の強さ
によって人格は形成されると言
うのである。この良心の強い人
ほど良心的な人であり、人格者
であるということができるので
あるが、この強い良心を私達は
今求められているものであり、
より良心的な人間、より人格的
な人間をめざして私達は自らを
律していかなければならないと
思うものである。

要約するところ自律性がある
ということとは、この良心に従っ
て行動することであり、この良
心に従って良識―理性により自
ら立てた自律的な意志によって

行動する人が「自律性のある人」
ということになると思われる。

ところで最近の世相の中では
この自律性に欠ける言動が非常
に多いことに驚かされる。特に
これからの次代を負う若者に付
和雷同の傾向が著しく、集団で
良心不在の如き不正を働く事例
を見聞する度に慚愧の念に堪え
ないものがある。

重ねて申すならば、我々は日
常においても、情におし流され
たり、他人の言動に付和雷同し
たりせず、社会生活のルールを
守らない人には注意を与え、社
会悪にも眼をそむけず、勇気を
もって社会正義をおし進め、更
に自己の意志と判断にもとづい
て、正しいと信ずるところに向っ
て行動の出来る、自律性のある
人になりたいものである。

行事報告

主事 山下清一

第九回市民卓球大会

宮津市と宮津市教育委員会主催による第九回市民卓球大会が平成三年十一月二十四日、宮津市体育館で盛大に開催されました。由良チームも団体戦の自治会対抗戦と、個人戦に出場し元気がいっぱい健闘しました。

団体戦では、Eゾーン一位となり六チームによる決勝トーナメントに勝ち進みましたが、準優勝戦に勝ち進むことが出来ませんでした。

個人戦では男子A級で、由良チームの藤井選手が準優勝に輝きました。女子A級では、日比選手がよく健闘し、三位に入賞し、面目を保ちました。

第七回市民綱引き大会

恒例となりました市民綱引き大会が、平成三年十二月八日、市民体育館で宮津市体育指導委員会、宮津市教育委員会の主催のもと、三十チームが参加し一本の綱に精根こめて熱戦が展開されました。由良地区から、ジュニア男子・一般男子・一般女子・一般男女混合の四チームが出場しましたが、一般女子準優勝の外は練習の成果を充分発揮出来ませんでした。

出場チーム	
ジュニア 男子	5
ジュニア 女子	4
一般男子	13
一般女子	2
一般男女混合	6

ソフトバレー
十二月十五日、ソフトバレー初の交流大会が開催され、由良地区からも一般男女チームが参加し、交流を深め、ソフトバレーを楽しみました。

「はたちの誓い」成人式

平成四年一月十五日、宮津市主催による成人式が宮津会館で開催されました。新成人三百十三人が出席し華やいだ雰囲気の中で、賑やかに決意も新たに、新成人を祝いました。

由良地区新成人名簿

(順不同敬称略)

- 山田寛之 松井俊彦 足立裕三
- 山下宏紀 中西 努 野村浩二
- 大石 明 野田秀一 有田吉尚
- 飯澤浩志
- 松本美保 榊田美穂 山口恵美
- 岸田美雪 中西由紀 藤本理香
- 濱野優子 榊田知子 野村美加
- 千坂しのぶ

由良地区同和学習会

一月二十六日、「差別と私達のかゝりわり」を学習テーマに、与謝教育局沖野啓志主事をお招きし、学習会を開催しました。

基調講話として、沖野主事から同和教育的課題と現状について、正しい理解、自分自身の課題として、勇気ある行動、の必要性について講話を拜聴しました。

啓発映画として、同和地区出身青年の就職、結婚問題等を主題とした、「幸福はいちばんあとから」、を鑑賞し、差別についての認識を更に深めることが出来ました。

分散会では、学校での同和教育と家庭での指導仕付けについての話、結婚問題等が発言の主題となり熱心に討論が展開されました。今回は特にご婦人の参加者が目立ち、今後の地区同和学習会についての展望が明るくなりました。参加の皆様有難うございました。

男子の部

チーム	1	2	3	4	順位
1	○	×	○	×	3
2	○	○	○	×	2
3	×	×	○	×	4
4	○	○	○	○	1

男子は四部が初優勝を飾り、女子は、三部が優勝の栄冠を手中におさめました。

本大会の成功にご協力下さった役員の皆様、選手の皆様、有難うございました。

四部対抗バレーボール大会
第十二回四部対抗バレーボール大会が二月二日、由良小体育館で盛大に開催され、地区運動会に次ぐ大イベントとなりました。

一、二、三、のかけ声、歓声、拍手、溜め息こもこも、寒気もなんのその体育館は熱気で包まれました。試合は男女共リーグ戦による総当り戦で、ファイナルプレー、珍プレーの競演で熱戦が連続し応援団も観衆も声援に力が入りました。

女子の部

チーム	1	2	3	4	順位
1	○	×	×	×	4
2	○	○	×	○	2
3	○	○	○	○	1
4	○	×	×	○	3

四部対抗囲碁大会
四部対抗囲碁大会、三部優勝。二月二日、由良の里センターに各地区の精鋭が一堂に会し、五名による五番勝負で、勝数合計で優勝を競い、名手、名局が生まれました。

優勝 三部
準優勝 二部

自治学級開かる

二月十六日、「宮津市政と、地域づくり」を今回の主要テーマに、中西、山下両市議会議員をお招きして、自治学級が開催されました。

基調講話として
宮津市政の課題について

山下議員から

地域づくりと題して

中西議員から
講話を拝聴の後、参加者全員による質疑、提言、討論が活発に展開されました。

由良地区の将来を期待し、また案じた意見が中心となりました。主な論題は地域の活性化対策で、企業の誘致、高齢者対策、環境改善(下水道)、若者を定着させる方途は、と真剣な意見、提言が百出し予定時間を三十分も超過する加熱ぶりでした。このエネルギーが地域の活性化に発展することを期待します。

参加者五十名

生涯学習講座

二月二十九日、生涯学習講座の一環として、講演会を開催しました。

講師に須津地区、江西寺住職尾関義昭師をお招きし、「布施のころ」と題した講演を拝聴しました。

フィットネス

スポーツ教室終る

一年余りにわたり生涯スポーツ振興の試みとして、グラウンドゴルフ、ソフトバレー等、誰でも気軽に親しめるスポーツを中心に取り組んで参りましたフィットネススポーツ教室を閉ずることとなりました。

講師として終始熱心にご指導下さった市教委の先生に厚くお礼申し上げます。

生涯スポーツとしてご理解下さり参加下さった地区の皆様、ご苦労さまでした。本教室を通じて体力に合せた運動、程よい汗、ゲームの楽しさと共に、友情と親睦が深められた意義深い教室でした。

新年度からは、新しい形体でフィットネス、スポーツを継続し発展していきたいと考えています。

“新しい風を求めて”

由良婦人会会長 中西晴子

皆様、婦人会と云うものに対して、どのようにお考えでしょうか。

「エッ婦人会ってまだあるんですか！」

「そんなもの知らん」

「あつかましいおばさんの集まり」

「お母さんを遊ばせるところ」

「日よう日になるとばたばたと出かけるところ」

「なまいきに勉強なんて云って、何をしているやら」

「敬老会、運動会、文化祭、なんだか忙しそうだな」

「このような答えが案外返ってくるのではないでしょうか。」

由良地区の婦人会員は百六十二名、平均年齢四十三才、全世帯の三十一パーセントが加入し

ております。各支部の活動はばらつきがありますが、全体としては、春のごきぶり団子作り、運動会、敬老会、文化祭のお手伝い等があります。

宮津市の連合婦人会に加入しており、府中、栗田に次ぐ多人数です。年令層も若く、機動力は宮津市の中でも、ピカ一と云われ、府の教育局、宮津市等、心の時代と云われる今日、生涯教育にむけての女性施策の計画にはいつもお誘いがかかります。

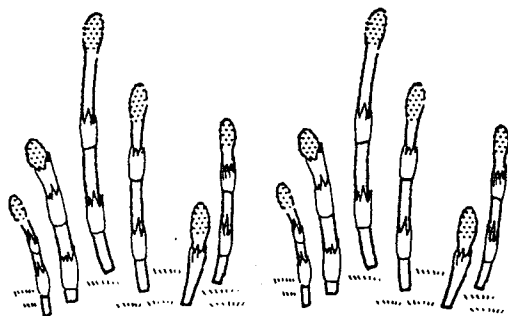
日よう日に色々な行事が催され、出かけてゆく事になる訳です。これも全会員に情報を流し、出欠をとると良いのですが、仲々はかどらず、役員が参加するところが多くなります。そんな訳で日よう日にお留守番をお願いし

なければなりません。
役員構成は、本部四名、支部十四名合計十八名です。
役員は負担が多くなり、皆、敬遠しがちですが、必ず何かを得ているはずで、私自身も一年間を通して、本当に貴重な体験をさせていただきました。そしてこれから先も会のため、私自身のためにも会と細く長く付き合っていきたいと思う今日、この頃です。

役は人を成長させるとは良く云ったもので、役を通して知識を広めながら、人との出会いを作り、この出会いが人間を一周りも二周りも大きくする事を、身を持って感じさせていただけました。

高度成長下の日本に欠けているのは、心です、そしておもいやりとします。地域に交わって生きていく人はこの心を養われます。さゝやかながら潤いのある町づくりにわずかながらもお手伝い出来れば幸いと存じま

す。
今年の京都府連合婦人会の活動反省大会のテーマに「新しい風をあなたから地域へ」と掲げられておりました。その新しい風を求めて婦人会はこれからも家庭と仕事を両立させながら、頑張りたいと思えます。
地域の皆様方の温い御支援をよろしくお願い致します。



同和学習会に参加して

飯田 和子

『人の世に熱あれ、人間に光あれ』と宣言し、部落解放にたち上がった水平社が結成されて丁度七十周年を迎えました。

本当に、人間にくまなく光があたっているのでしょうか。私達の身のまわりを考える時、こんなに世の中が進んできているのに——と思うことがあります。

由良地区では、毎年同和学習会が開催され、今年で七年目だとお聞きしました。主催者の先見性と、それを支えてこられた由良地区の皆様には敬意を払います。

私も、平成元年度より毎回参加させてもらいました。参加者は、決して多いとは言えませんが、役員をしているのでといって、役目上参加していただく方

が多いようですが、入れかわりきていただくので、この七年間には、たくさんの方々から研修されたことになりました。だから、私は継続することは、とても大切なことだと学ばせていただきました。

「差別、差別と言いきません。」
「もう、差別はありません。」

「研修会に何度か出席して言われる事は、よく分かります。」

という人が、たくさんあります。「でもね、結婚になると……。」

と世間体を気にする発言になってしまいます。本当に、それでよいのでしょうか。自分を、差別されている人と置き換えて考えるべきです。

頭では、分かっている……。では、二十一世紀に差別を残さ

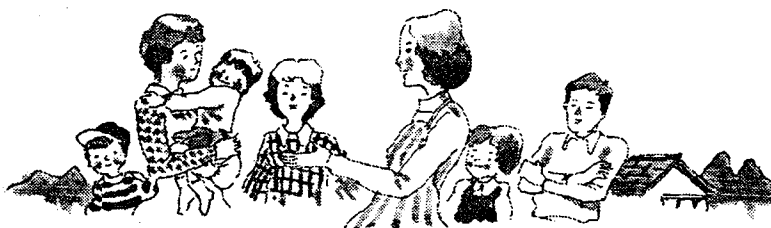
ない大きな力になり切れません。自分一人では、とても弱い力もみんなの力を集めれば、大きな力となります。

宮津市の調査で、同和地区の存在を、だれから聞いたかというところ、父母が三三・七％と多くをしめていました。その父母も、同和研修会に参加したかというところ、参加したのは三五・三％で、六三％の人は、一回も参加せずという結果であることを、当日、講師の先生からお聞きしました。

世間体というものを変えるためにも、たくさんの方が研修会に参加されることを望んでやみません。同和問題学習は、人間を尊重し、尊重されることが基本となります。人間が尊重される、即ち、自分自身のためにも、同和問題学習会に参加してみてください。

国が、本格的に同和对策にのり出し、同和問題の早急な解決こそ国民的課題と宣言したのは、一九六五年です。それから二十

七年しかたっていない。でも、みんなの努力があつて、多くの事柄が解消しました。あと残ることは何か、はっきりさせて、みんなで見つめる世の中を築いていくために力を合わせようではありませんか。



同和学習会に参加して

大 森 日向子

「同和の学習会に行ってみませんか」

と誘われ行ってみることにになりました。

はじめに、映画をみせていただきました。「幸福しあわせはいちばんあとから」という題でした。過去に同和地区外の人との結婚をその両親に反対され、別れたため、その人が自殺してしまったという過去をもつ同和地区出身者の男性がいました。女性は、児童福祉施設で働き子供を育てていました。色々のできごとの中で予断や偏見を捨て去り、前向きに人生を歩みはじめ、二人は幸せになるという映画でした。こんな悲しい思いをした人が、実際にはどれ位多くおられたことだろうか。実際には、映画の

結末のようにいかなかった場合も多くあったことだろうと思うと、よけい悲しくなりました。また、差別は、この映画で取り上げられたことのほかに、日々の生活の中で、もっともっと厳しい差別があったことだろうと考えると、一層、胸の痛む思いがしました。

その後、分散会となりました。それぞれの出席者が、自分の見聞きした生の差別の様子や、日頃思っている事を、率直に出し合い、話し合うことができました。こんなに、いろいろな年代の方々が、思い思いの意見を出し合えたのはとても良かったと思います。

私は、その話し合いの中で、次の様な事を話させていただき

ました。

差別ということが良くないと思っけていてもなかなか断ち切る事ができていません。それは、「世間」という実態の無いものが、差別をさせているのではないだろうか。そして、「世間」を作り出しているのが我々なのではないだろうか。

また、間違った「世間」を作っけていけない為にも、もっと同和問題について学習を深める必要がある。決して、知らなかったら差別はしないかというところ

ではなく、知らないからこそ間違っけて差別してしまふ事が有ると思う。

そして、同和問題が、以前と比べ大きく解決の方向に前進し意識も変化している。けれど、今の子供達が、人の気持ちを思いやる事が難しい面もあるので、同和問題の解決の為にも人の痛みや気持ちがかかる子に育てていく必要がある。

以上の様な事を言わせていただきました。とても、有意義な学習会で良かったと思えました。

川 柳

山 田 寿 美

清き水、四方を潤はす由良が岳

乱舞するカモメにだつてルールある

「成人式を迎えて」

山下 宏 紀

まだ先のことだとほとんど関心を持っていなかった成人式を迎えて「私も成人に仲間入りしたのだから、しっかりしなければ……」と気分を引き締めている今日この頃である。

成人というとすぐ参政権のことが頭に浮んでくる。最近の日本の政治を考えると金権腐敗、総理大臣の指導力のなさといった面ばかりが毎日報道され、各政党や政治家の前向きな行動や新しい対策は遅々として進展しないように感じられ、どうにもなれ、といった気持ちになりがちである。しかし、民主政治の根幹は自由選挙にあるので、選挙の時には棄権しないで、折角与えられた権利を有効に行使しようと思っている。

私事になるが、私は中学三年の時に交通事故で父を亡くした。あまりのショックで茫然自失、なにもする気がしなくなった。勉強にも身が入らず、私生活も

とかく乱れがちだった。高校を卒業して就職してからは「こんなことではいけない」と反省するようになってきたが、充分なものではなかった。家族構成は祖母と母と妹と私の四人である。男性は私一人である。私がしっかりして家族を支えなければならぬ。成人式を契機として、自分の立場を充分に自覚して、いろんな面で祖母や母に心配をかけないように、また、交通事故は絶対に起きないように心がけ、妹にも頼られるような生き方をして行こうと思っている。

私たちの育ってきた時代は日本経済の第二次高度成長期以降であり、飽食、使い捨て、消費は美德といった非常にぜいたくな時代であった。欲しいものは、ねだれば買ってもらえたり、飽きてくれば捨ててしまえば、また、新しいものをねだる。それが当たり前といった、物の有難さを知らない思いあがった時代に育ってきた。そのついでが、公害、環境汚染、資源の枯渇といった現在の社会問題につながってきている。

また、工業化社会の進行は都市に人口が集中して、過密化し、逆に農村は過疎化、高齢化が進行してきている。私たちの住んでいる宮津市は、その典型的な例であると聞いている。

いったんぜいたくな生活を経験すると生活程度は下げにくいものだけ言われているが、私は出来るだけ使い捨ては止め、節約に心がけるようにつとめようと思っている。私たち一人ひと

りの力は小さいものだが、それが、寄り集まれば大きな力となり、私たちの社会を動かして行くものである。と偉そうなことを考えている。

私は幸いにも地元で就職することが出来たが、同級生の大半は都会へ出て行ってしまった。先程も少し触れたが、宮津市の過疎化現象は止まっていない。と聞いている。地元の政治家の方々や市当局の方々は充分努力していただいているとは思いますが「若者が喜んで定着するような宮津市の環境づくり」を一段と進めていただくようお願い申し上げたい。以上が成人式を迎えての私の感想と決意である。



短歌

中西富志

光

海風をうけて建ちたる歌碑ここに上田三四二師のうつつしみの歌

松風を愛て三四二師由良浜に文化遺産となれる歌碑建つや

伊予ゆ来し青石光り三四二師のうつつしみの歌の碑いしごみとなる

蛸貝の白々まろぶ冬の磯朝を若きらジョギングをせり

落葉吹く風やや重きわが庭に入つ手は白き花盛りなり

暖冬のゆえにか山に紅々と椿は咲けり陸月の朝

わが部屋に臘梅スイトピーとの花挿して早春の匂いあふるるばかり

いちよう鬘花吹雪散りてそのままに対面なせり若貴力士

わか好む彩を流せしスカーフや帰郷の嫁に謝してなびかす

山茶花の垣根づたいに駈けゆけるいたちの長き尾は光りたり

成人式を迎えて

山口 恵 美

平成四年一月十五日、私にとつて忘れられない記念日。

成人式の実行委員を依頼され十月下旬より、記念行事、記念誌の内容はどのようにしようかと活動していました。

その中で、今までとは異なつた友人にめぐり合い、一つの事を協力し、やりとげたという喜び(満足感)を味わうことができ、良い経験をさせて頂いたことに感謝しています。

また、私自身、個人的に忙しい時期でもあったため、早くこの日が来てくれないかと待ちに待っていました。

今日、成人式を迎えたのですが、「二十歳」となると「責任」という二文字が自分自身の肩にのしかかってきます。

まだまだ実感がわいてきませんが、今まで過ごしてきた数倍の人生を送らなければなりません。

今後の人生を送る中で、つまずいた時は、人生の先輩である両親をはじめいろいろな意見を聞いてみるのが大切だと思います。

そして今、自分が何をしたいのか、何が大切で、何が必要なのかをしっかり見極め、自分で始末のできる範囲内で翼をひろげ、行動していきたいと考えています。

地区対抗バレーボール 大会に参加して

竹 田 成 美

毎年、冬になると各地区から大勢の選手の皆さんが、このバレーボール大会に出場されます。今年も、一月二十二日に行なわれ、寒い中、一日中、皆さんの熱気と歓声の渦のなか、一人のけが人もなく、無事終了いたしました。

女子の方たちは、事前に各地区で練習し試合にのぞまれたようでした。我が宮本地区も「優勝」というのでなく、なんとかボールに体がついていけるようにと練習しましたが、やはり、本番では寒さのせいもあったのでしようが、たくさんの方たちからの視線をあげ、はじめは緊張し体がおもうように動きません。おもわぬところでミスをし

たり、頭でわかっても手足がついていかなかったりで失敗の連続です。しかし、時間がたつにつれチームの皆の気持ちも一致団結し、応援の人たちも一つになって、白いボールだけを追っていました。頭の中は、ボールのことしかありません。ネットをはさんでボールがいたりきたり、そのたびに歓声があがり由良小体育館にひびきわたります。もう少し、体育館の天井が高かったら、もう一步、早く手足がでていたら……こんな場面も数多くありました。

男子の方たちも、皆さん童心にかえって和気あいあいと楽しそうにみうけられ、日頃みられぬ一面を見たようでした。さすがに男子の方は、よくラリーが続き、どこからともなく拍手がおこり、大声をはりあげ応援するのもしんどいくらいで最後には、のどまで痛くなりそうでした。

私も由良に嫁いずいぶんと顔なじみも増え、一層このバレーボール大会が楽しいものとなっています。又、これを機会に初めておみかけする方もおられたり、この方はどこの地区の人だったかしらと、私以外にもこのような感想をおもちの方も多いいと思います。

一年に一回だけの短い一日でしたが、日頃の運動不足の解消と楽しいひとときをすごせました。これも各役員の皆様、婦人会の皆様のお協力があればこそです。ありがとうございます。ぜひ、来年も参加したいと思

ます。その時までにバレーボールが少しでも上手になれるとよいのですが……。選手の皆さん、ご苦労様でした。



卓球

枅 本 清

も然も楽しみながら長く継続したいと考えています。

◎卓球を選んだ理由

前項のとおり循環器系の大掃除をしてくれるスポーツとして卓球こそ自分に適したものと選んだ次第です。子供の頃からピンポンとして楽しんだ記憶がありあの白い球に対応する敏捷さや鋭い反射神経と、フットワークにより足腰を鍛え利き腕や肩のしなやかさは上半身を柔軟性にし、強く打込むことによつて壮快さを覚えストレス解消に一役買うという利点もあり、技術的なことはさておき、あくまでマイペースで結構楽しみなが汗を流せるスポーツです。

◎由良の卓球サークル(その名は「さくら」)よりひとこと

現在卓球サークルの会員は十三名で由良小学校の体育館を練習場所として利用させていただき毎週月曜日の午後八時から九時三十分まで約一時間半みっちり汗を流しています。栗田の卓球サークルとも練習交流があり互いに交友を深め、特に海洋高校の高松先生の御指導を仰ぎ技術の向上を図って居り、先に行われた宮津市卓球協会主催の競技には日比道栄さんが上位入賞されるなど卓球サークル活動も盛んで、併せて卓球を楽しむながら週一回の定期練習を継続、習慣づけ、体力づくりとふれあいの場としてさわやかな汗を流すことは素晴らしいことだと思います。卓球に親してみたいお方のお越しを心からお待ちしています卓球サークル「さくら」からお願いたします。

連絡先 塩 見 美代子

電話 二六一〇八九

◎運動の必要性と私なりの素人観
常識として人の筋肉は廃用性萎縮の原理のとおり使われないと縮む性質があり特に柔軟性は繰返し刺激を与えないと退化するので絶えず有酸素運動を続けることによつて質の高い筋肉及び関節を軟かくし特に大切な体力のエンジンである心臓の働きを活発にし血流を良くしてやることだと思えます。運動不足になると血流は弱まり血液が運ぶ酸素と栄養は体のすみずみまで行き渡らず、皮膚刺激もないから皮膚はたるむし、大事な血管にはコレストロール脂肪がたまり弾力性を欠いて、いわゆる動脈硬化の状態になり、また運動しない体は老化を早め成人病の原因ともなるので心すべきことだと思えます。

「一日のうちの一、二回は汗を流しなさい」というのはこの辺りのことをいうのでしょいか。普通血液が心臓を出発して再び心臓に戻るには約一分間で、それが運動すると3分の1の速さで戻ってくるといわれています。つまり心臓は運動することによつて体も温くなり、たくさんの栄養と酸素を含んだ血液を送り出し、逆に老廃物を持ち去って自分の体の中を血液の流れが大掃除してくれ、体の組織が新鮮になること、いわゆる循環器系のクリーニングをすることが自分の健康管理のうえで重要なポイントと認識し、運動の必要性が如何に自分の健康を左右するかよく理解できると思えます。

そこで年令に似合った運動を選び寝たきりにならないために

現代空手考

竹 田 茂

一、空手の歴史

空手発祥の地は沖縄である。どうしてこの南海の小さな孤島で空手が生まれ、今や世界中に広まったのだろうか。我が世界松林流の宗家長嶺将真著『沖縄の空手道』によると「西暦一七六一年に中国から武術の達人公相君（クーサンクー）が数人の弟子と共に沖縄に來た。公相君は非常にやせて弱々しい人のようであったが、向って来る相手を簡単にかわして見物している人々を驚嘆させた」（大島筆記）とある。又今から三百年前にも冊封使汪楫（ワンシュウ）が伝えたと「空手」の型が今も残っており、この公相君と汪楫が伝えたとされる武術が我が流派では、そのまま「公相君」、「汪楫」という型の名前として受け

継がれている。このような記録や史実から直ちに空手は中国から直輸入されたものだと思いがちだが、しかしこれだけで結論付けるのは早計と言わねばならない。

公相君が沖縄に來る百年も前に沖縄には独自の武術があり、更に一六〇九年に薩摩によって禁武政策が施されたが、寸鉄の武器も必要とせぬ「手」という武術は薩摩の苛酷な圧政に対する反抗と相まって、そのためにかえって非常な発展をとげたのである。

当初空手には流派の区別がなかったが、やがて二つの大きな流派に分れた。一つは首里系で「ショウリン流」といわれるもので、琉球王城のあった首里や泊地方で発達した。別の一つは

那覇系で「ショウレイ流」といわれ子どもで、主として昔の那覇港を中心に発展した。この二つの系統の空手は封建時代の武士達が護身術として身に付けたもので、秘密の武術であり、その技の伝授は隠密裏になされた。それ故、当時の空手は一般の庶民には遠い存在であった。しかし、やがて時代の流れに依じて庶民にも解放されるようになりそれが現在のように大衆化されたスポーツ的な武術となつて発展してきた訳である。

二、武道としての空手道

万物には自己防衛本能というものがある。古来から先人によってその本能が武術として体系付けられ、今日の各種の武道として発展してきたわけである。

武道とスポーツの違いがよく言われるのは、武道により精神力が養われ、礼儀正しくなること……。

昨今オリンピックやスポーツ

イベントで勝者のガッツポーズをよく見かける。これに対し、賞にも入れず、疲労困ぱいし、倒れた選手を抱きかかえたり、手を差しのべたりする選手の姿がガッツポーズの勝者よりむしろ見ている人々の感動をよぶのはなぜであろう。勝敗は一瞬の出来事であり、時の運である。苦しい練習の過程により養われた忍耐力や弱者への思いやり、友情等の博愛精神の自然なふるまいの発揮にこそスポーツをずる者の値うちがあるのではないだろうか。

武道では、それほど勝敗を問わない。むしろ試合では勝敗を争うが、優勝したからといってその者が武道の真髄を悟ったわけではなく、勝者が必ずしも免許皆伝とはならないのである。古来武道とは本当に生死をかけて修業したと想像できる。もしも中途半端な態度で取り組めば、すなわち死を意味したであろう。本当の生存競争がそこには存在

したのである。

では、すべての分野で多様化が激しい現代社会において武道の存在意義はあるのだろうか。五十年後、百年後にも武道の精神は受け継がれ、生き残れるだろうか。

武道界は世間一般からは保守的と思われる。この原因は、今の指導者達が年功序列を基準に礼儀や節度だけを殊さら強調し、稽古もせず、武道の本質を極めようともせず、技の継承のみで技の創造、発展を怠っているからである。

二十一世紀以降も日本の空手をはじめ各種武道が生き残るためには、稽古する過程で常に創造性と独自性を発揮していくことしかあり得ない。この「創造性」とは道場の中だけで発揮すればいいものではない。むしろ今後増々不透明を増す現在社会のあらゆる分野において武道で養った創造性を発揮してこそ

武道が生き残る道であり、武道家の生き残る道でもあるのである。

練習日 毎土曜日午後五時～
由良小学校体育館

フィットネススポーツ クラブへ参加のすゝめ

玉垣 泰子

昨年十二月十五日宮津市ソフトバレーが、市民体育館で開かれ、由良も三チームが出場しました。初めての試みです。三十

代男女四十代の男女のチーム編成です。なにしろ即席で作ったチームで練習も一回しか出来ませんでした。チームワークが、

よかったのでしょうか、二位の成績がとれ満足して帰って来ました。

このスポーツは、毎月一回由良小学校体育館で行われている「フィットネス」の中で、教えていただきました。

四人一組でビーチボールのような柔らかいボールを必ず三回で相手チームのコートに返す。但し同じ人が二回打ってはいけないというルールです。コートは小さくボールが柔らかいのでそれほどスピードがなくあんがい、身体がついていきます。誰でもやりやすいスポーツだと思います。

このような大会に出られたのもフィットネスへ参加してソフトバレーを知ったからだと思えます。

そこでフィットネスの様子を一言、まず最初に準備運動、専門的に習ってこられた方の指導でしっかりと時間をかけてやります。

天気の良い日は、校庭でグラウンドゴルフを行います。ナイターの煌々とした照明の下で木製のボールを「カーン」と打ちあつた広いグラウンドを走り回り、又ある時は、「ピン」と神経を集中してホールの中へ入る。成功すれば大声を出してはしゃぐとても気持がいいです。

天気の悪い日には体育館の中で「ソフトバレー」「ミニテニス」などを年令も三十代から七十代と幅広く昼間のつかれもどこへやら何もかも忘れ腹の底から笑い二時間が、「あつ」という間に過ぎてゆきます。又いろんな人との出合があり本当に楽しいです。

帰り道では「おもしろかったな、肩コリが直ったよやわ、頑張つて続けて行こな」なんてしゃべりながら、健康で、スポーツが出来る幸せをかみしめて、帰ってきます。

又四月から新しく公民館の主催でフィットネスクラブが出来

印象に残った少年野球

山田 剛士

ます。まず一度体育館へ足を運んでみて下さい、これから自分

の体力をおもしろく楽しくためしてみませんか？

三年生から体力作りから初めた野球ももう終わりました。

六年生にもなると、大事な役をまかせられるとあっていました。予感的中したように大事な役をまかせられてしまいました。

「キャプテンには、山田剛士、副キャプテンは、二人堀家康行と小山良。」

と、一人一人の役を言われました。

これから、キャプテンで、チームを引っばっていけるかどうか心配でした。なぜかというチームの中には、練習をまじめにやらない人がいたり、練習にこない人が多かったからなのです。

練習していると、コーチからきつく、注意されることが多く、もう、野球には、いきたくないと思うことが、何度なくありま

した。

新人戦からは、いつもおしい結果に終わりました。やはり練習不足だと思いました。由良少年野球クラブの選手たちは、練習ぎらいのようです。

練習は、だからだしていてふざけるものでは、ありません。自分の力をつけていくために、あるのです。試合は、練習でつけた力をためすときだと思いません。

キャプテンになって、試合ごと

てないのは、チームワークがわるいからでは、ないかと、考えられます。練習の時にしっかりしていれば、どんな強いチームにでもかかると思っています。

一年間に、もっと力をつけていたら、宮津市一になれたかもしれません。一回戦には、かって、2回戦には、かてないということは、なくなると思っています。「なにやっとなや、もっとしっかりやれ。」

何回注意してもきかないやつは、いざというときに力を発ぎできません。

ぼくの一年間は、それなりにがんばれたと思います。ヒットもじゆう分に打ち、ホームランも打てたので、もんなしです。

しかし、ぼくがうっただけでは、勝てません。やはりチームワークです。かんとく、コーチに、注意をされながら一年がすぎてしまいました。

ぼくの一印象に残っている試合は、ピッチャーをやらせて

もらった、最後の練習試合です。試合と試合の間にピッチングをしていると、コーチによばれて、ピッチャーをやらせてもらえたことです。

ぼくたちは、中学に行っても野球を続けるけど、今の少年野球の人たちに、まじめに、しんげんに練習をしてほしいです。



剣道とぼく

北野照幸

健康いろはカルタ 20

四方寿朗

「強くなるぞ」

と、思い二年生のときから剣道を、やり始めました。

火曜日、金曜日と週に二回一時間練習をします。七時ごろになるとみんながぞろぞろ集まります。今、ぼくは、六年生になって、体操や号令をかけるやくをしています。

二、三年のとき剣道なんて、練習がたいへんでいやだなあと思っていたけど五、六年になっていくとだんだん剣道が楽しくなってきました。いつもが、先生とかかりげいこをしていろんなことを教えてもらいます。冬になると寒げいこがあります。とても足が冷たいです。試合の前には、二人組でいろんな技を教えてもらいます。剣道にきているみんなが強くなるんだ、じよ

うずになるんだとひっしに頑張っています。

年に一度、級位試験があります。いつもとちがうみんなです。先生が見ていく中で学年に合わせて、二人ずつ試合みたいなのをしていきます。ぼくたちは、これまでならったことを、頭にかべて頑張っています。みんな一つ一つを、一生懸命しています。これまで練習してきたことをはつきする試合も一年に三回、とっても楽しみです。

これからは、もっともつと練習を頑張りみんなといっしょに剣道が続けていきたいです。

さ 淋しくはない 一人でも

と言うのはうそ。本心ではない。願望である。人生は常に孤独で淋しいものである。男女は一心同体になれても、夫婦は一心同体にはなれない。人生の不事は予告なしに突然やって来る。その終焉に人の生涯の収支総決算が世に問われる。不時に備えて銀行への貯金も大切だが、嫁と言わず子といわず、周囲の身近な人への日頃からの心配りを忘れてはならない。

き 気の持ちようで楽しい一日 「早やく死にたい」と口ぐせに言う人がある。「そんなら医者と呼ぶな」と言いたい。多くは家族への当てこすりである。逆に本人が死を予感すると、急に死という言葉さえ口にしなくなる。これが凡人の常である。

ゴールを考えないで走るマラソン選手はいない。明日になるかも知れない決勝点から、目を離すことなく、残された一日一日を大切に過ごしたいものである。

ゆ 夢と希望のある暮し 百年後に人類は滅亡すると予測する有名な学者がある。人口爆発、エルネギーの大量消費、環境破壊など地球の危機はもう取り返しのつかない処まで来ている。ここで科学の過信を止め、人間の幸せとは何かをもう一度地球規模で考えるべきだ。

南北富の格差が果して人間の知性で解決出来るだろうか。知性が駄目なら又戦争……。とにかくみんなが自分の身の廻りをしっかり見つめ直して行動しないと、これからの世の中は、自分一人の幸せなどあり得ない。

囲碁同好会

石井久由

囲碁同好会の現況についてお知らせし今後のご協力をお願い致します。先づ第一に年間通してのありかたですが、一月に始まり一応十二月でメ切りとしますが新春碁会で世話人を選出して交替します。毎月二回の一回目は定例会とし二回目は研究会として居ります。定例会で年間五十番打つと考え七割の勝率があれば進級(段)します。大会としては宮津では一月は農協本所にて支所対抗戦。六月には公民館対抗戦と宮津市民囲碁大会があります。よく行く会場としては府中の夏の会と、文化祭行事の大会。栗田地区との親睦囲碁大会等々があります。由良地区では一月二日新春大会二月には地区対抗戦等。四月には花見碁会、六月にはさなば

り大会等々と数多くの催しもして居ります。いづれに致しましても囲碁を通してお互ひの交流を図り一日でも、或はひとときでもゆとりのある時間があれば良いのではないかとも思っております。現在由良地区の同好会は十七名の会員で楽しんでおりますが、もっともっと多くの方の加入を望んでおります。最近一月の農協囲碁会には三組十五名の出席者があり二月の地区戦では二十名の参加がありました。潜在的には由良地域にはまだ多くの皆様同好の方々が居られるやに聞いて居りますので、これから近くの方の方に話し等聞いて戴き私達共々楽しんで戴く様希望しております。何とぞ今後共御支援下さいます様お願い致します。

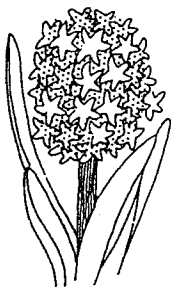
詩吟同好会

一 会 員

人生八十年誰もがいろいろと趣味の会や、サークル活動をされ、詩吟同好会が六十一年にサークル活動に加わり、地区の方からお誘いをうけ、指導して下さる方が由良の先輩と聞き、気楽に入会するきっかけとなり、三日坊主にもならず楽しく続けている一人です。

詩吟同好会は今年より男性一名が入会され、現在は男性四名女性十名で月三回の練習です。詩吟といえは硬いイメージですが、詩吟といえは硬いイメージではありませんが休憩ともなれば幅広く年齢層いろいろと話題も多く和気藹々の中時間が経ってしまいます。熱心な大先輩の許にまず発声練習から始まり基本として胸とお腹の境にある横隔膜を収縮させながら息を吸い込む腹式呼吸

を中心として吟じるのですが、ともすれば喉から大きな声を張り上げ、あとがつづかなくなりがちです。むずかしくいえば、一声の出し方(発声法)音感をつかむ、感情表現、大ゆり、中ゆり、いまだにこの中の一つも取得出来ない自分ですが、長くをモットーに人の和、体の健康、心の健康のためにも続けたいと思えます。親切に熱心に指導して下さいます先輩の方々、ほんとうにありがとうございます。



郷土に於ける澤井市造翁(一)

作 中西孫兵衛(先々代)

由良の歴史をさぐる会 四方 寿 朗

表記の書を原文で紹介する前に一言

脇の森鷗外文学碑のある公園の東の端に、高さ三米の立派な台座に、石の胸像が建っている。知る人ぞ知る由良の生んだ明治の風雲児、澤井市造翁の像である。氏は嘉永三年(一八五〇年)宮本で生れ、最初は船乗りとして活躍していたが、明治十二年二十九歳で北海道への航海の途中、難波して海岸に泳ぎ着き九死に一生を得た。これを契機として北海道で鉄道工事に従事することになった。

以来日本各地、満洲、朝鮮、更には台湾に渡り、澤井組として鉄道敷設その他多くの工事を手掛け、明治の大実業家として

たくさん業績を残した。

同時に翁は由良をはじめ、この地方に多額の寄付をしておられる。大川神社、松原寺、明治四十年由良川の大洪水には、地元の外加佐、天田郡へも見舞金を、又四ヶ村組合高等小学校、そして明治三十七年と四十一年の二度にわたる由良小学校の増改築などである。現存する大きな石を巧みに組み合わせて造った小学校の立派な塀も翁の寄付によるものである。

翁の偉業を顕彰して大正三年に台北と由良脇とに銅像が建てられた。由良の像は第二次大戦中軍用に供出され、現在ののは戦後間もなく石で再建されたものである。

私は以前から海、山、川の美しい自然の中で大らかに育った

大人物、澤井翁の波らん万丈の生涯を、今の由良の人々に是非知っていたきたいと考えていた。今回公民館からのご依頼で何か原稿をと言われて、直ぐ翁の事を思いついた次第。伝記としては大正四年澤井組本店から発行された「澤井市造」という二三三頁の立派な書物がある。

この外に表記の「郷土に於ける澤井市造話題」という先々代中西孫兵衛氏の直筆の冊子があり、宮本の澤井澄子氏が保管しておられる。親しい友人の筆によるこの伝記は、文章も立派で当時の由良のいろいろな様子を知る上にも大変貴重な資料である。

幸い澤井家のお許しも得られたので、私の拙い紹介はこれ位に止め、早速原文を記述することにす。句読点が無い事、古い漢字など多少問題もあるが、どうかみなさん、じっくり読んでいただき、是非御感想をお聞

かせ下さい。

原文

(一)君乃幼時

君は人生乃最大不幸とする暖かならぬ哺育を受けられたそは君が呱呱乃初声を挙げられし年に早くも父なる人を喪ひ母たる人も家政上己むなく親類の強制にて父の兄たる人に再嫁されたが君の外に貳姉を連れての事にしあれば言ひ知らぬ煩悶もありつらん嫁後程なく一女子を挙げられしが夫れや是れやの心労は當時の事情を知れる老人の懐旧談に聞く事屢々なりき安政二年即ち君が六歳の時遂に此世を去られたれば母たる人の御顔をも熟知さるゝ筈がない實に両親に御縁薄き人なりき此不幸なる君は小室未蔵に嫁したるいよとなん呼べる伯母御の手にて養育さるゝ外他に術もなく伯母も亦ア、不憫な孤児よと日々愛撫を加えつゝ実に小室文蔵に嫁せる當時にも市造君を召し連れ我が産の子にも弥増せる慈愛鞠育を



加えられた安政五年君が九歳と
なられた時當村の医師にて兼て
碩学の誉高き林泰仲先生の許に
通学さるゝ事となつた蛇は寸に
して其氣を現はすとかや君が天
稟の豪放不羈は此頃よりほの見
えしとか数ある先輩後進の友達
を片一端より苛じめ散らし師の
訓戒を聞かばこそ腕白日々に増
長せしかば師匠も殆んど困じ果
てられた親類始め五郎兵衛の義
父母捨て置くべきにあらずとて
林先生の許を退学させしは安政
六年の央なりそれより後は転じ
て本家たる伯父澤井長兵衛に随
ひ教育を受けられた通学する事

三星霜此間も相変らぬいたづら
腕白を敢てし一方の天晴餓鬼大
將となりすまし暴行一にして足
らず日夜に起り来れる被害者よ
りの懸合訴えには師の長兵衛も
殆んど困却されたが其都度君が
天稟の弁才もて縦横無尽瓢箪鯨
的に甘まく切抜け然も無我無心
天真らん漫なる態度に接しては
怒髪衝天の訴え者も一種言ふ能
はざる興感を覚えつ微笑を洩ら
して事なく解決を告ぐる事屢々
なり君が他日成功の暁幾多の難
関を切抜け勇戦苦闘数千の健児
を号令使役するの機才実此時
よりぞ胚胎せるになん今に至る
まで故老の一夕

談に話題に上る
ものは此時に於
ける逸話として
五郎兵衛市の名
長へに高しとぞ
私の屋敷へも時
々襲来を受けた
密柑の期節には
密柑荒らしに或

時は榎樹に猿攀し其実をあせる
処を見咎られ叱声一過の下に猿
の如く逃げられた事も是は
御當人たる君も永く記憶に存し
けん偶々拙宅へ訪問せられて愚
母と対談せらるゝ度にいつも此
昔話を語られた又或時由良川へ
鯊魚釣に出かけられた其途次濱
野路にある共同大井戸に目方六
七百匁もあらんと思ふ大鯉の昔
より井戸の主とし水の神とし養
育されたがあつた君は臆する色
もなく携えたる釣糸を垂下して
群遊せる少魚をなぶり居しに忽
然彼の大鯉開口一番釣針を一呑
にした此大鯉の水の神として尊
畏せらるゝを知れる君は流石に
吃驚したと見え蒼惶糸を手繰り
針の根元より切断したるを機と
し跡をも見ず一散に逃げ帰りし
が其事発覚し後日濱野路より師
たる長兵衛方へ敵談に及ばれ師
も甚だ當惑されしとぞ之を要す
るに君の幼時は不幸の境遇に人
と為りしも敢て悲哀寂寥の為め
心身を失墜せしめず苦と戦ひ難

に勝ち其氣慨の横溢する処制止
するに由なく遂に腕白の挙動に
出でしものにて大行は細瑾を顧
みず豊臣秀吉の幼時も憶ひ出さ
れて英雄は古今其轍を一にする
の感慨禁する能はず

年拾五歳となりぬ始めて執業
の時期に達せり當時由良には小
廻船即ち百石積内外にて大なる
ものにても百五拾石是も一二艘
にして合せて四拾艘近き持船あ
り式百石以上千石積迄六拾艘内
外此内持船拾艘位即ち磯田家の
如きにて其外ハ船長として支配
をなせり如此多数の船あり随て
当地も亦た段盛なりき君は義母
たる実家の小西平右エ門の船に
乗組見習に出でたり雄心勃勃た
る君何為れぞ僅に百石積内外の
船に甘んずべき

(以下次号)

川柳

宮津番傘川柳会

北回り歯止めがきかぬルーレット

スピード違反路傍に供花泣いている

ピッタリと好みどおりの美容院

地引き網朝一番の父の腕

お湯の出る暮らしに何か飢えている

未知数の幸せに酔う披露宴

脱ぎ捨てて畏も読んでるノラの旅

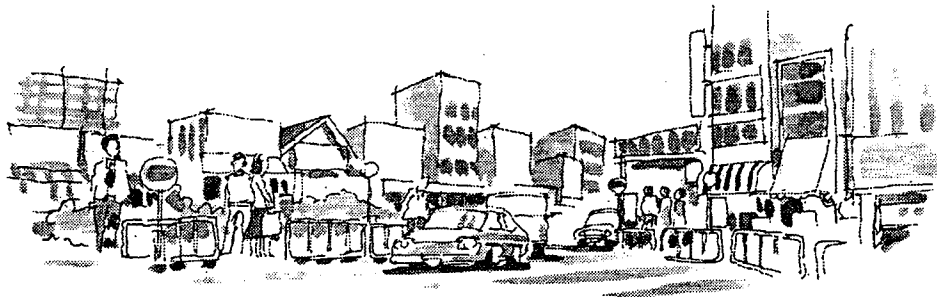
扁平足の私語裏道に落ちている

田村 キヌエ

磯田 栄

大森 美智子

飯沢 鳴窓



編集後記

由良の歴史をさぐる会の四方寿朗先生が今回から「郷土に於ける澤井市造翁」(先々代中西孫兵衛氏作)を連載して下さることとなり嬉しく存じます。

澤井市造翁の伝記は、大正四年に発刊された立派なものがあ
るが、今では数が少くなつてい
て、ほとんど見ることの出来な
い状態であり、郷土の育んだ大
事業家の偉大な業績や優れた人
柄を知る人もだんだん少くなっ
て来ている現状である。

この度翁の近親の先々代中西孫兵衛氏の力作による翁の内側から見た人間像を中心とした伝記を、この公民館だよりに載せていただき、地区の皆様や関係の皆さんに、澤井市造翁への認識を新たにしていたゞくことは、由良地区の誇りとしている翁の顕彰ともなり、執筆の意図に対しても敬意を表する次第であります。(小室記)

11/11/11

11/11/11

11

